SOCIAL MEDICAL CORPORATION
SHOUWAKAI

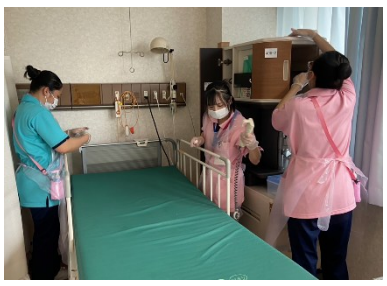
OTA PRESS

For Partners

Mar. 2025

看護部介護課
師長 栗原真帆

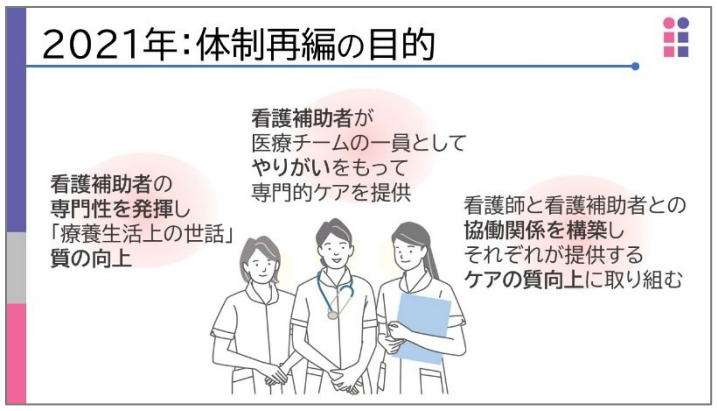
看護師と看護補助者の協働体制



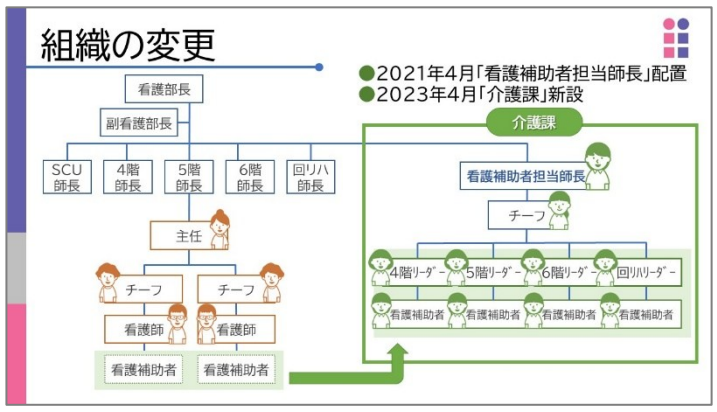
◆ 当院の看護補助者の現状

超高齢社会の進展に伴い、医療現場では人材確保が課題となっています。当院では、2015 年から外国人労働者の採用に取り組み、ベトナムや中国からの留学生、EPA 看護師の受け入れを行っていました。2019 年から介護技能実習生の採用を開始しましたが、教育や指導のばらつきが課題となり、2021 年に看護補助者体制を再編するために「補助者担当師長」を配置しました。

目的は、①医療チームの一員として、やりがいをもって専門的ケアを提供できる、②専門性を発揮し、「療養生活上の世話」に質の向上に繋げる、③看護師との協働関係を構築しそれぞれが提供するケアの質向上に取り組むということとしました。



様々な活動の結果、2023 年に「介護課」を新設し、現在 39 名が所属し、うち 11 名が外国人労働者であり、ベトナムやミャンマー出身の技能実習生が活躍しています。



◆ 看護師と看護補助者の協働推進に向けた教育

2021 年に看護管理者向け研修を実施し、外部講師の支援を受けながら 2022 年はチーフ会を中心に看護補助者との協働推進に向けた研修を行いました。特に効果的だったのが、看護師と看護補助者が経験した困難な事例を共有する「リフレクション研修」です。

実際の事例として、看護補助者が、食欲不振の患者様に少しでも食べていただこうと声かけを続けた結果、下膳が遅れたケースがありました。看護師は「下膳が遅れている」と感じていましたが、その背景を知ることで、お互い理解が深まり、協働の重要性を再認識しました。

その他、看護補助者も加わった院内の感染環境ラウンドが開始され、その結果を院内掲示板にアップし、療養環境の改善に繋がっています。病棟の看護補助者の教育を充実することで看護補助者のやりがいへと繋がり、結果人員が安定し、看護師の負担軽減へと繋がっています。

現在は、身体拘束低減に向けた活動と看護補助者リーダーの教育に重点を置いています。将来的には介護課から「介護部」として独立させ、看護補助者が介護福祉士として専門知識を活かし、主体的に活動できる体制を目指したいと考えています。

介護課の取り組み

■介護課の設置について

介護課の師長ができ、業務関連だけではなくプライベートでの相談がしやすくなりました。また、各病棟に看護補助者リーダーを配置したことで病棟単位ではなく、介護課内での連携が取りやすくなり、多忙時など応援体制が図りやすくなりました。

また、教育体制（研修）が充実し、委員会活動への参加も出来るようになりました。

■看護師との情報共有について

看護指示のもと、患者のケアを行っていますが、患者の状態を見ながらケア方法の変更が可能と思われるときには、看護補助者側から看護師へ報告しケア方法の見直しについて積極的に提案できるようになりました。院内のスマートフォンを利用して多職種と情報共有しています。

■リーダー研修で学んだこと

各病棟のリーダーがそれぞれの病棟内での看護補助者の課題を抽出するためにメンバーとの関わり方や聞き手の役割について学びました。課題解決の為に病棟師長・看護主任・看護チーフと協議出来るようになりました。

■リフレクションの効果

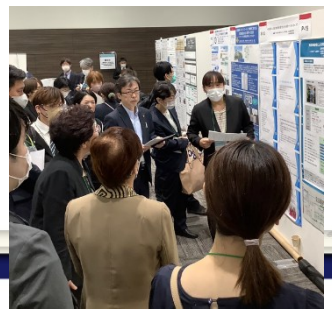
法令遵守に沿った業務範囲に中で、看護補助者は「療養生活上の世話」にあたる部分を担っており、看護指示のもと患者に関わる為、看護指示が法令遵守に沿っていない、または、看護補助者が患者に関わる上で不安なこと・関わって不安だったこと等の事例を看護補助者側から挙げて、看護師とリフレクションすることで看護指示の見直しや看護補助者の業務範囲の理解をしてもらうことに繋がりました。

現在では、法令遵守に沿った看護指示が出るようになって来ています。

■学会発表の取り組みと学び

2023 年度「看護補助者による環境ラウンドの取り組みとその効果」について全日本病院学会で発表しました。学会での発表は、初めてのことだったので伝えたいことにポイントを絞り、簡潔で分かりやすい資料を作ることに苦戦しましたが、院長や看護部長をはじめ多くの方にサポートして頂き無事に終えることが出来ました。また、学会への参加は、他の病院や施設の取り組みを知ることができ、

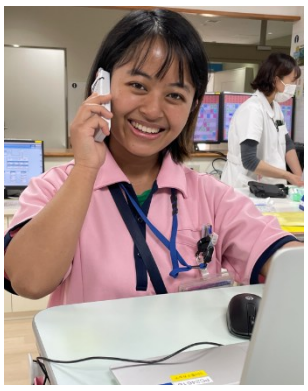
また、情報交換の場にもなり貴重な経験をさせて頂きました。



【 技能実習生の活躍 】

ナン・カム・ケーさん
ミャンマー出身
2022 年 5 月から就業

日本のアニメ、特に「となりのトトロ」「アリエッティ」など宮崎駿作品が大好きで、いつか日本に行きたいと思っていました。コロナで外出できない期間に日本語能力試験の勉強をして N5・N4 を取得。ある日、地元の村長さんから日本で技能実習生の募集があると聞き面接を受けて渡航しました。日本に到着後は１ヶ間の研修を受け、大田記念病院に派遣されました。
現在は、入浴介助、オムツ交換、配膳下膳、シーツ交換、退院後の整備などの業務を行っています。リーダーから丁寧に優しく指導を受け、患者さんから「ありがとう」と声をかけられることも多く、仕事にやりがいを感じています。
定期的に受講する永井先生の研修では身体拘束のことなどとても勉強になっています。現在、介護福祉士や N1 取得を目指して勉強をしています。今の生活がとても楽しいので、もっと勉強して貢献したいと思っています。



ナン・モーモー・サンダーさん
ミャンマー出身
2022 年 6 月から就業

住んでいた村に日本語が勉強したい人の募集があり、１年間無料で日本語学校に通って N3 を取得しました。
その後、技能実習生のプログラムで来日して１ヶ月間、日本の生活のルールや介護の専門的な言葉などの研修を受け、病院に配属されました。
病院で使う言葉は習ってきた内容と違うことも多く戸惑うこともあります。また、認知症の患者さんから怒られることもありますが、より専門的な知識を学んで患者さんの対応ができるようになりたいので、介護福祉士の資格取得を目標にしています。
研修は、以前はとても難しかったけど、最近は資格取得の振り返りにもなり、理解が深まってきました。
月に４～５回の夜勤にも慣れて、病院で仕事をする毎日がとても楽しいです。もっといろんなことに挑戦して、できる業務を増やして、ずっと長く日本に住みたいと思います。

■発行　脳神経センター大田記念病院 地域医療連携室　TEL：084-975-3900